

記 入 日

2023年 10 月 16 日

助成団体名 山都の森と水を守る会

2022年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

<p>企画テーマ</p>	<p>①2022年8月20、21、24日「水からの速達」上映会 ②9月6、15日学習会「環境アセスメントって何？」 （講師：熊本学園大学教授中地重晴氏） ③11月26日岩佐恵美氏講演会「考えてみませんか？ ゴミ問題」 ④2023年2月12日環境アセスメント勉強会（講師： 環境アセスメント業務従事者） ⑤7月16日「マイクロプラスチックストーリー」上映 会 ⑥8月16日環境アセスメント方法書学習会（講師： 熊本学園大学教授中地重晴氏） ⑦8月20日藤原寿和氏講演会</p>
<p>取り組み実施期間または日 時</p>	<p>2022年8月～2023年8月</p>

【取り組み目的】

- ①熊本県上益城郡山都町東竹原地区に産業廃棄物最終処分場が計画されていることが明らかになり、産廃処分場とは何かを知るために映画「水からの速達」上映会を企画しました。
- ②東竹原に産廃処分場を計画している星山商店から2022年6月末、地域住民のもとへ「環境アセスメント手続きのお知らせ」という手紙が届いたことから、「環境アセスメントとは？」を知るべく勉強会を開きました。
- ③現在東竹原の産廃処分場計画に係る環境アセスメント手続きは一旦中止となっていますが、一般廃棄物とともに産業廃棄物の実態について学ぶ必要があることから、廃棄物問題に詳しい岩佐恵美氏（元衆参議院議員）を招いて講演会を企画しました。
- ④上益城郡5町（御船町・益城町・甲佐町・嘉島町・山都町）の広域連合で御船町上野地区に計画していた一般廃棄物処理・処分場計画が、突然民間企業の産廃処理施設建設計画に変更になり、その経緯が明らかにならないまま環境アセスメント条令による「（仮称）上益城地域におけるエネルギー回収施設等設置事業計画段階環境配慮書」の手続きが開始されることになったため、実際に環境アセスメント業務に携わる方から意見書の書き方を学ぶ会を企画しました。
- ⑤産廃問題の根底にあるプラスチック問題について学ぶため、家族で親しめる内容の「マイクロプラスチック・ストーリー」上映会を企画しました。
- ⑥御船町の「上益城地域におけるエネルギー回収施設等設置事業 環境影響評価方法書手続き」が開始されることになったため、問題点を学び意見書を書くために学集会を企画しました。
- ⑦同じく環境アセスメント方法書手続きへの対処を学ぶべく、「止めよう！ダイオキシン汚染・東日本ネットワーク」事務局長 藤原寿和氏を招いて講演会を企画しました。

【取り組み内容と成果】

① 3日間4回、3会場での上映会に約180名、山都町内をはじめ熊本市や宮崎県からの参加者もあり、産廃問題に関して山都町や宮崎県住民への情報提供、関心の高まりに寄与できました。以降、熊本市や南阿蘇村、西原村等で「水からの速達」上映会が様々なグループによって企画されるきっかけになりました。

②環境アセスメント手続きについて、全く未知の人が多かったと思いますが、講師の中地重晴氏が分かりやすく説明してくださいました。9月6日の講演を録画し、15日には動画での学習会を持ちました。宮崎県の自治体から説明会の要求があったことから、星山商店は環境アセスメント配慮書の手続きを一旦取り下げましたが、こうした動きにもかかわらず、2日間で約120名の参加者があり、住民の関心の高さを実感しました。

③非常に内容の濃い講演会でした。11月26日は山都の森と水を守る会主催、27日は御船町の産廃処理施設建設を考える会主催での連続講演会といたしましたが、26日は約70名、27日は約80名の参加がありました。

2050年カーボンニュートラルを実現するための循環型社会の姿を示し、限りある天然資源の消費を抑制するためにはリデュース、リユース、マテリアルリサイクルが重要であるという事実から始まり、プラスチックごみは「焼却からリサイクルへ」とごみ行政の大転換が行われていること、最終処分量を減らすためにはごみを手元分別することが大事、ゼロウェイストを目指す自治体の取り組みに学ぶべきことを示されました。

④御船町の産廃処理施設に係る環境アセスメント配慮書の縦覧が始まった（2023年1月24日～2月24日）ことから、実際に環境アセスメント業務にあたっている方をお招きして、少人数でざっくばらんに疑問を提出して、意見書の書き方を具体的に学びました。参加者21名。

⑤「マイクロプラスチック・ストーリー」上映会は会場参加53名、オンライン参加30名合計83名の参加者がありました。視聴してくださった方々にはプラスチック、特に容器包装のための使い捨てプラスチック問題について理解が深まったことと思います。もっとたくさんの人に見てほしい、自分の生活を見直したい等の感想が寄せられました。

⑥産廃処理施設建設を考える会との共催。産廃処理施設に係る環境アセスメント方法書手続きについて、問題点や意見書の書き方を学びました。上益城郡5町の問題ということで、初めて御船町・山都町以外の甲佐町での開催でしたが、61名の参加者がありました。甲佐町議の協力を得ることで、住民の関心を高めることができましたと思います。

⑦産廃処理施設建設を考える会との共催。全国の産廃問題に詳しい藤原寿和氏を迎えて、産廃処理施設における火災や爆発事故、汚染物質漏洩等の危険性について、また方法書に対する意見の書き方について具体的に学びました。

【備考欄】

*東竹原産廃処分場計画に加え、御船町上野地区における産廃処理施設建設計画が明らかになり、次々と環境アセスメント手続きが始まったため、対応に追われて、助成金申請時における計画「おおき循環センターくるるん見学会」「三重中開発見学会」は実施できませんでした。

*上記以外の活動

- ・2022年8月22日より山都町東竹原の産廃処分場に係る環境アセスメント手続きの第一段階「株式会社星山商店（仮称）山都町蘇陽地区管理型最終処分場及び中間処理場 計画段階配慮書」の縦覧が始まりました。この手続きは9月14日に一旦中止となりましたが、それまでの間は環境アセスメントの仕組みについて学び、配慮書を読み込み、意見を書くことに集中しました。
- ・2023年1月24日～2月23日、御船町上野地区の産廃処理施設に係る環境アセスメント手続きの第一段階「（仮称）上益城地域におけるエネルギー回収施設等設置事業 計画段階配慮書（シムファイブス）」の縦覧では、237ページの図書を読み解き、1301件の一般意見を提出しました。
- ・1月25日 環境アセスメント環境配慮書の意見募集の周知および住民説明会の開催等について要望書を提出（上益城広域連合長、5町長宛）
- ・2月7、17、21日 「止めよう！ダイオキシン汚染・東日本ネットワーク」事務局長・藤原寿和氏によるzoom学習会
- ・2月28日～3月1日藤原寿和氏および北海道安平町職員1名が来熊し、東竹原産廃処分場予定地、御船町上野地区産廃処理施設建設予定地を案内しました。また御船町と北海道安平町で産廃処理施設建設を計画している事業者である大栄環境についての情報交換と市民活動について意見交換を行いました。
- ・3月2日 環境アセスメント配慮書について県知事としての意見に住民等の意見を反映させることについての要望書提出
- ・3月8日 御船町産廃処理施設環境影響評価審査会を傍聴
- ・3月後半 統一地方選県議会議員選挙に向けて、公開質問状を作成、郵送
- ・4月 パンフレット「上益城郡五町のゴミ問題を知ってください」制作
- ・5月23、24日 北海道安平町から「あびらの自然を守る会」会員2名と藤原寿和氏が来熊され、東竹原産廃処分場予定地、御船町上野地区参拝処理施設建設予定地を案内の後、産廃処理施設建設を考える会および山都の森と水を守る会会員と交流会を行いました。
- ・6月 パンフレット「熊本県上益城郡東竹原地区に計画されている産業廃棄物の最終処分場問題をご存知ですか？」制作